

ひろしま・おかやま若者サポートネットワーク

実態把握調査2025 調査報告

2026/2/17

ひろしま・おかやま若者サポートネットワーク 調査研究アドバイザー

国立保健医療科学院 主任研究官

増田理恵

調査概要

■目的

「若者実態把握調査」は、本ネットワークにおいて広島・岡山の若者と若者支援団体の実態を把握することを目的に3年をかけて対象や規模を広げながら調査を進めてきました。最終年度の本調査ではネットワーク加入団体を利用する若者を対象にアンケートとインタビューを実施しました。

■対象 ひろしま・おokayama若者サポートネットワーク加入団体を利用する若者

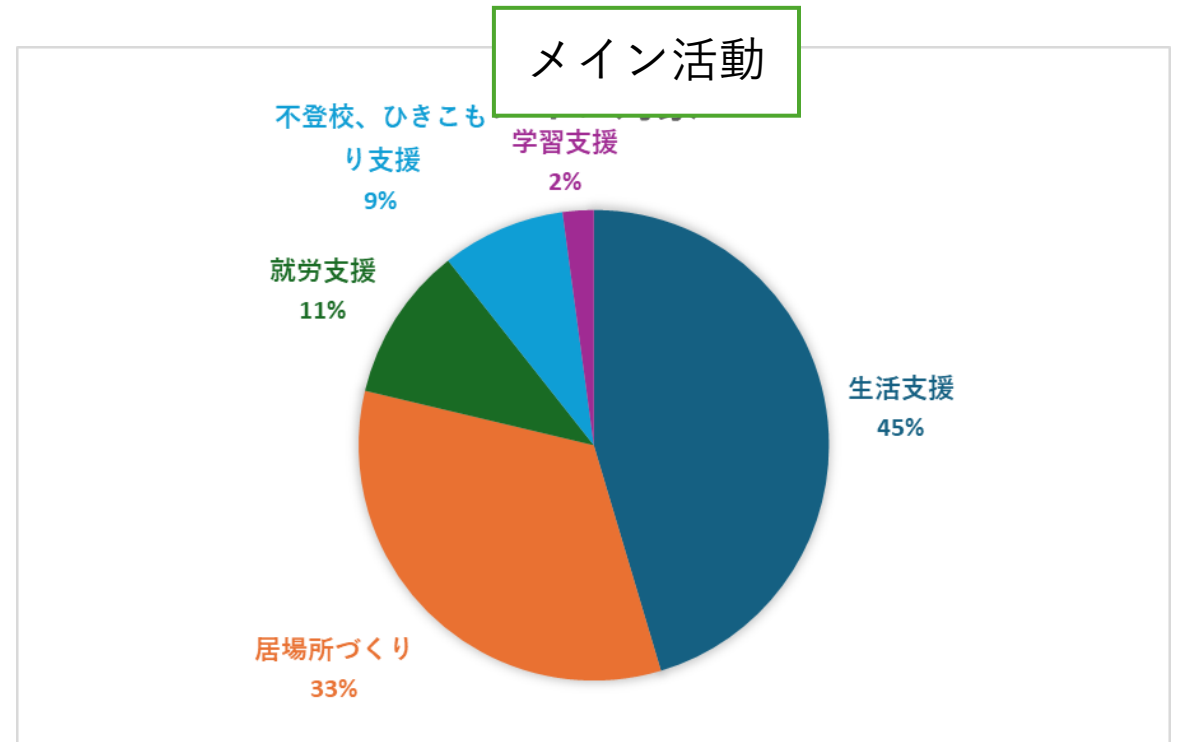
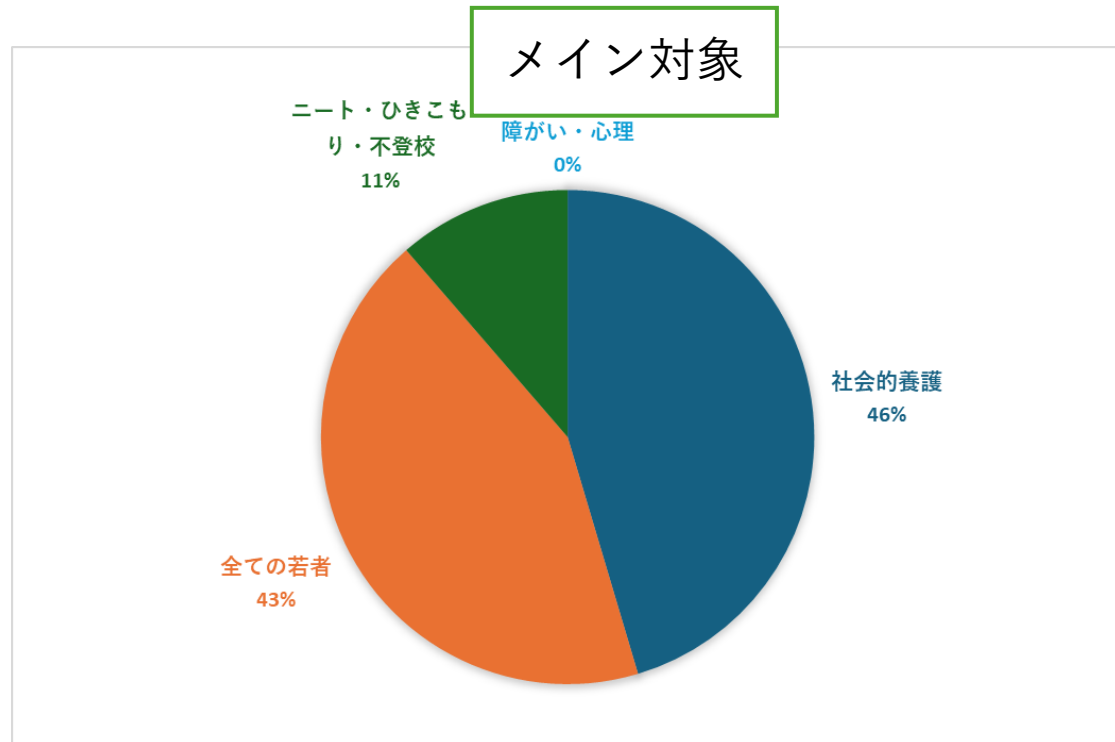
■回答 ①アンケート：15団体141名の若者 ②インタビュー：5団体5名の若者

■内容 青少年支援団体を活用している若者の実態を知るためのアンケート及びインタビュー

■期間 令和7年8月1日～9月30日(火)まで

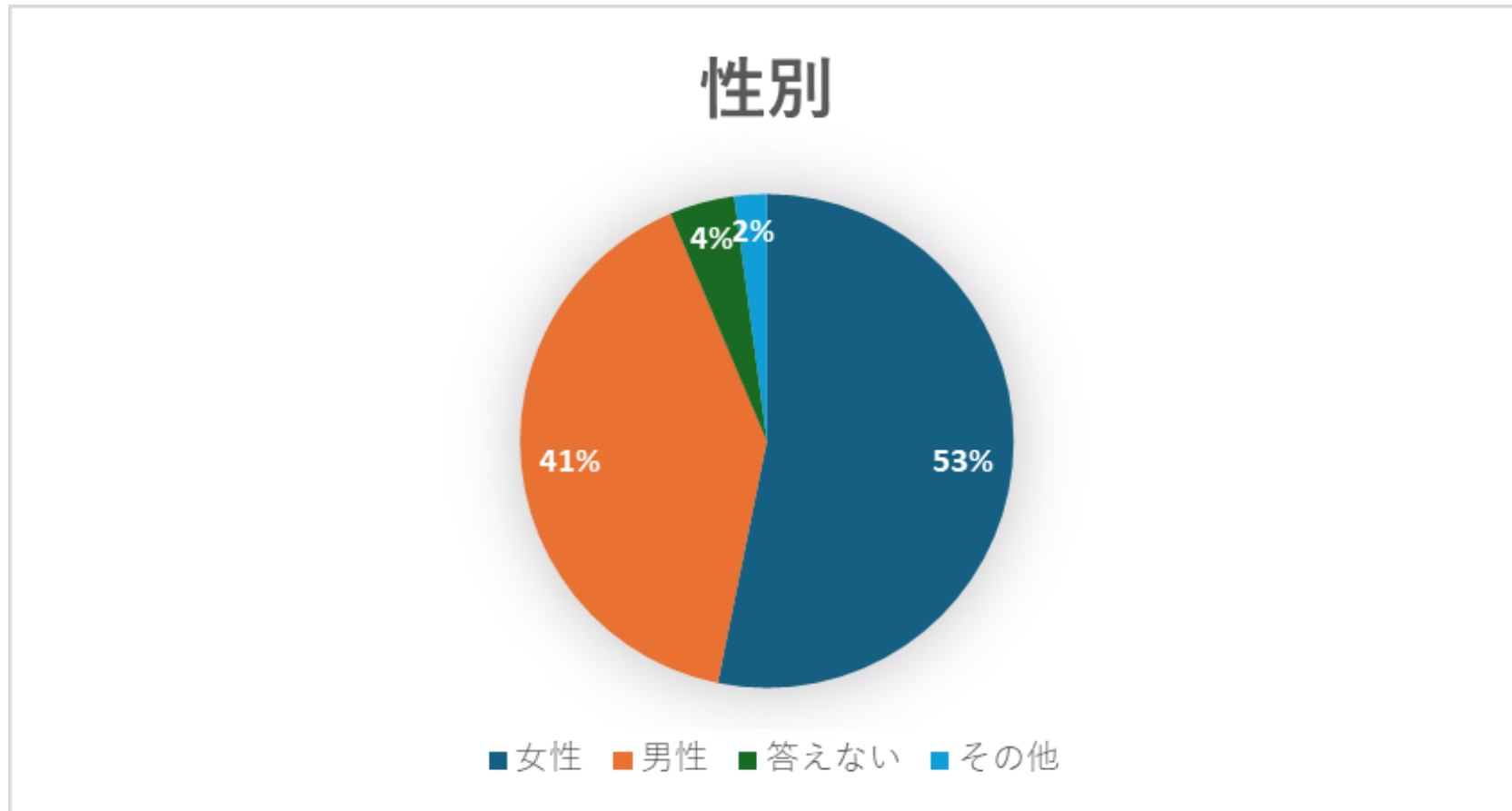
■方法 ①アンケート：GoogleフォームによるWEBアンケート(所要時間10分程度)
②インタビュー：ZOOMによるオンライン面談(30分程度)

団体の特性別割合 (n=141)

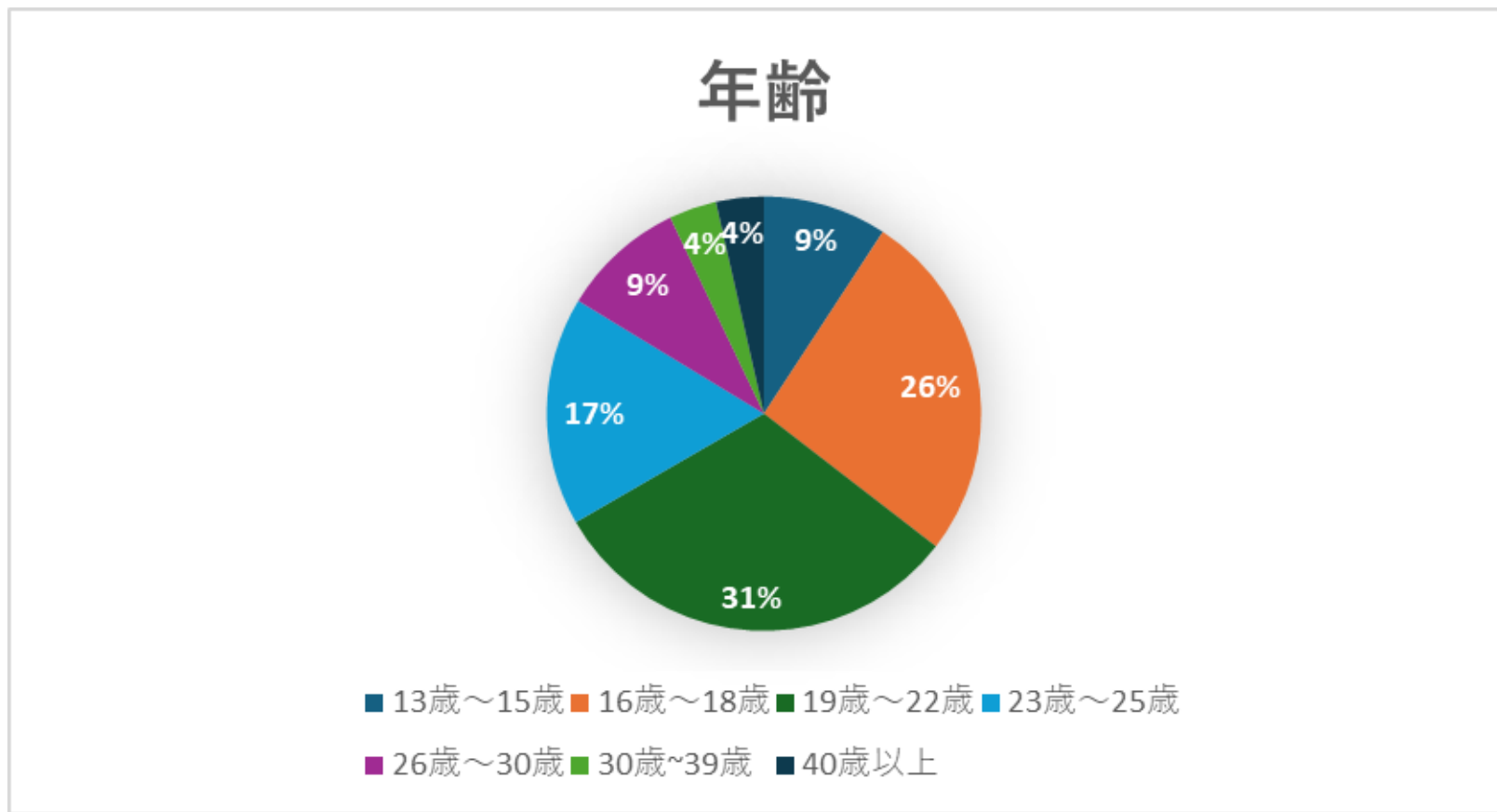


対象者全体の報告

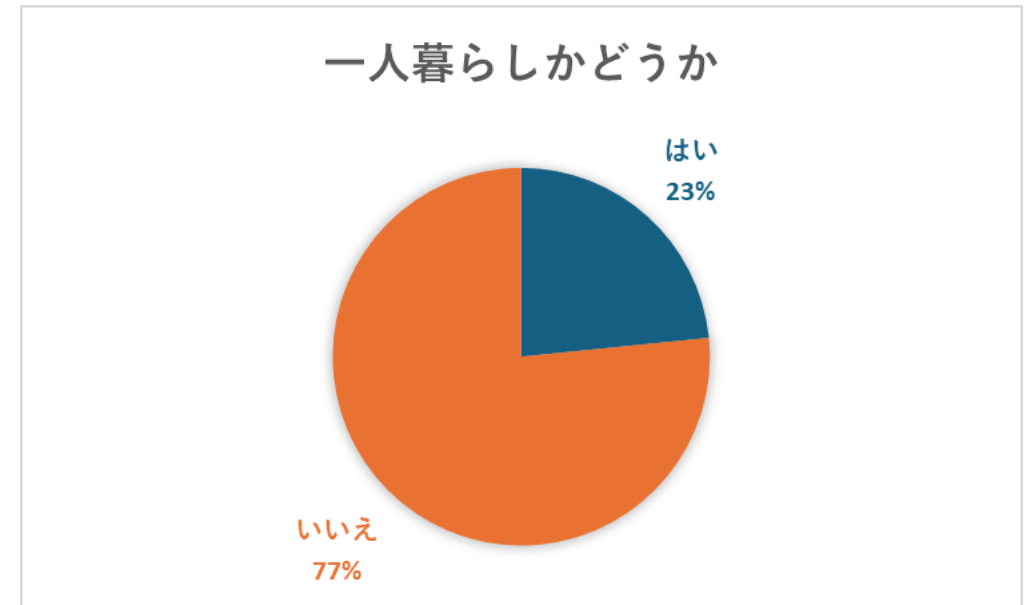
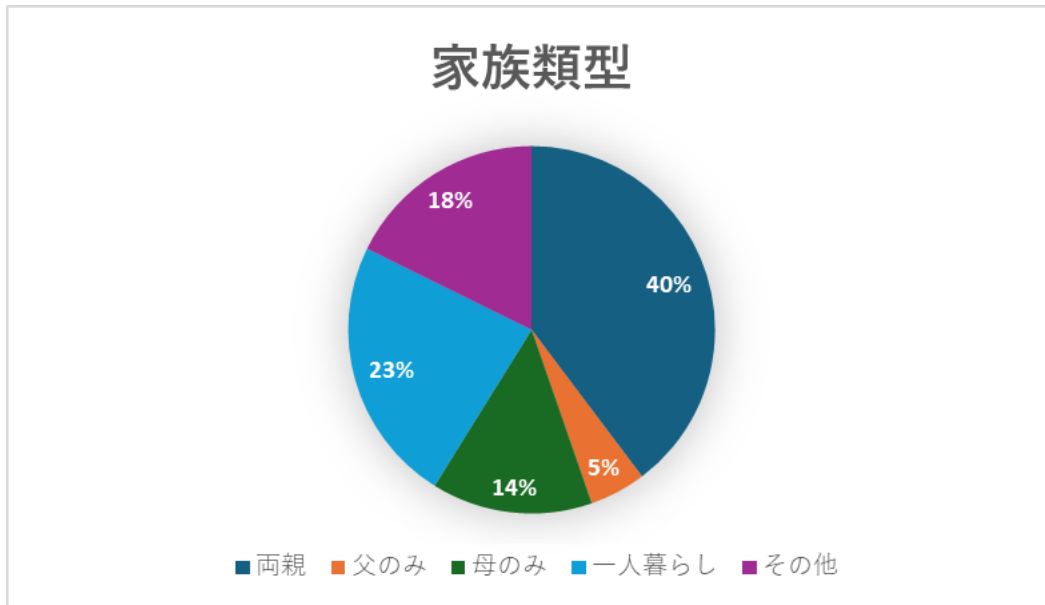
1. 性別 (n=141)



2. 年齒 (n=141)

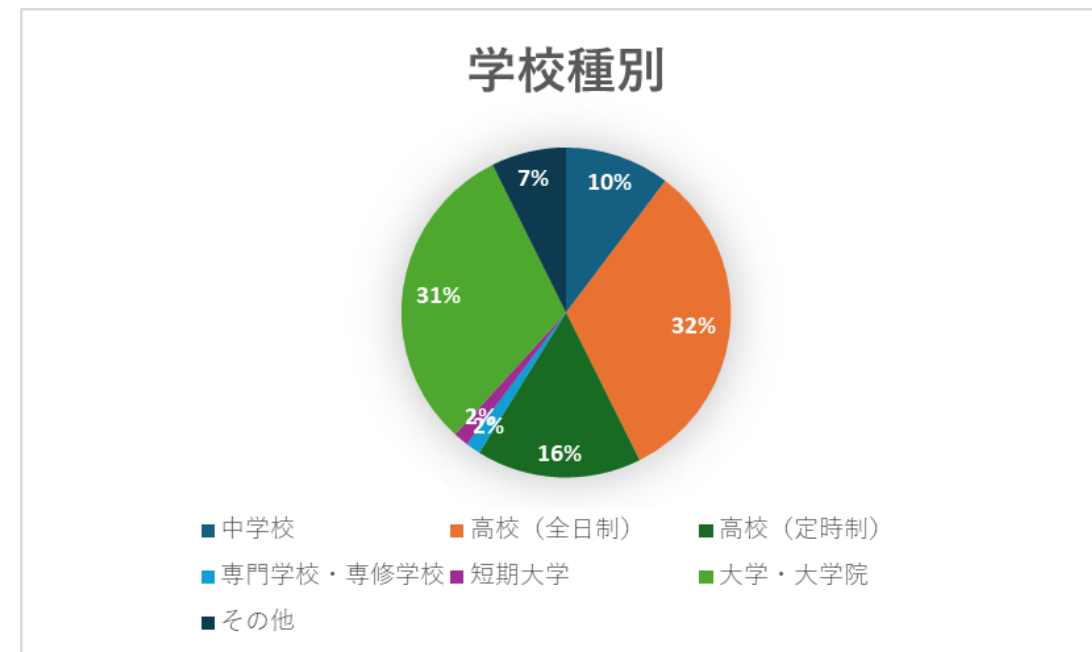
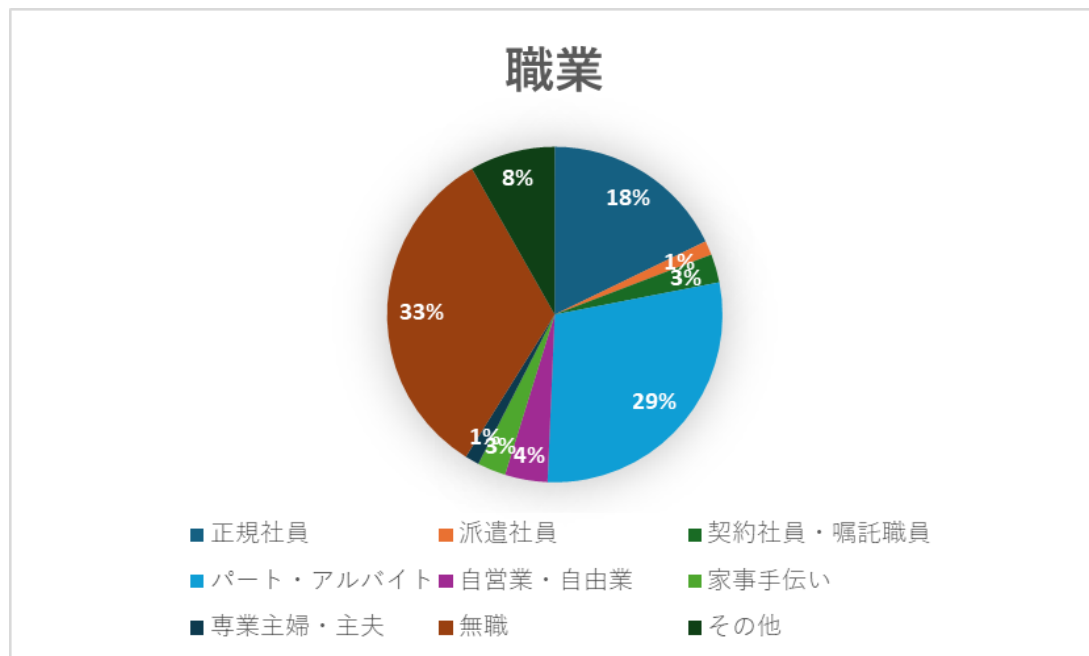
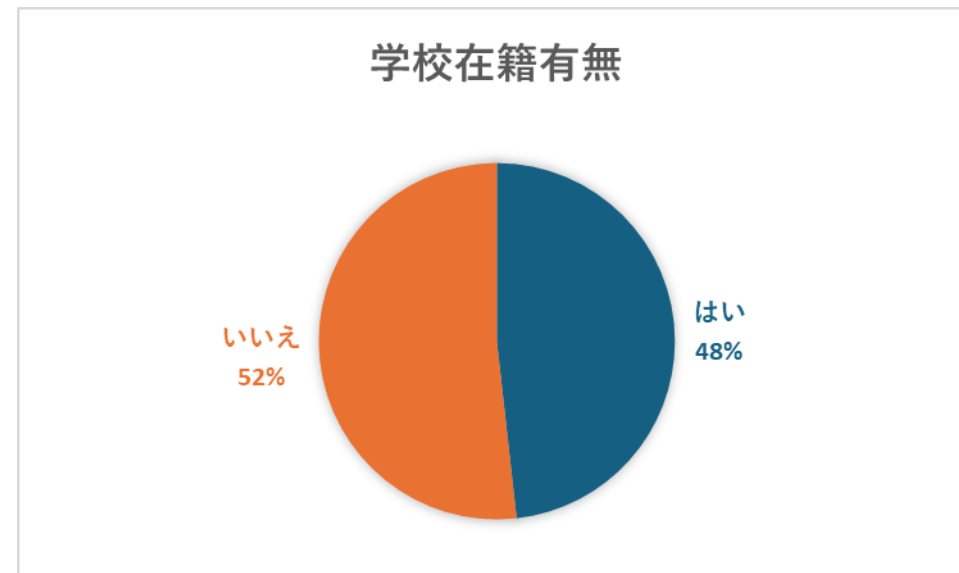


3. 同居家族 (n=141)

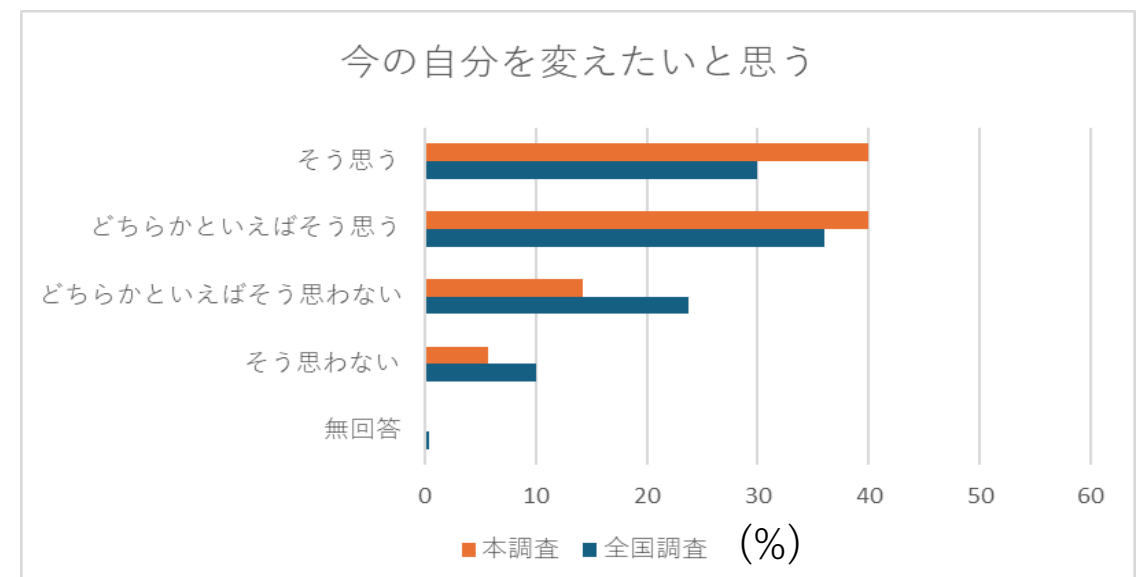
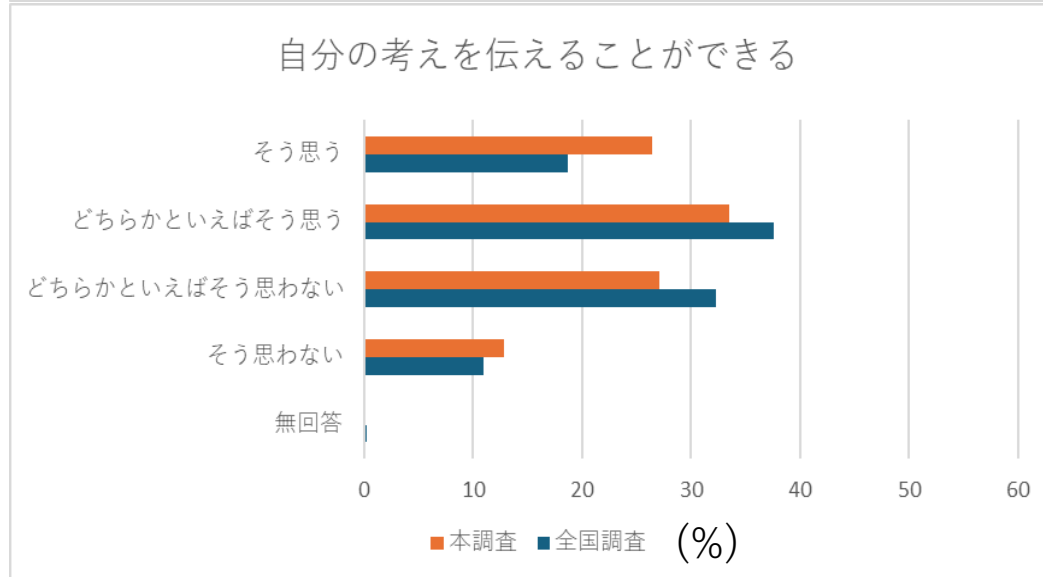
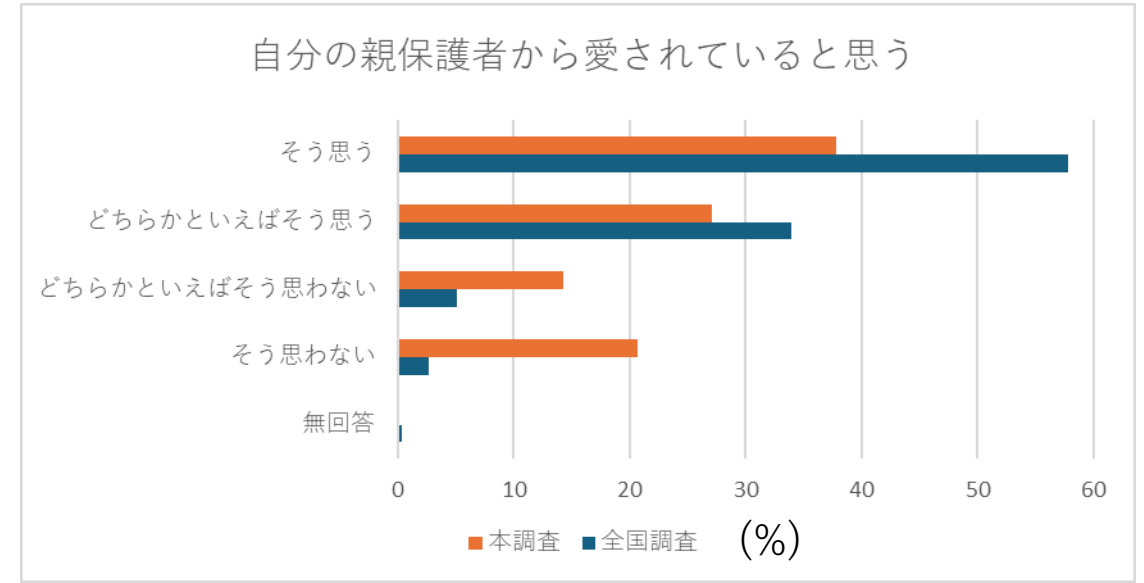
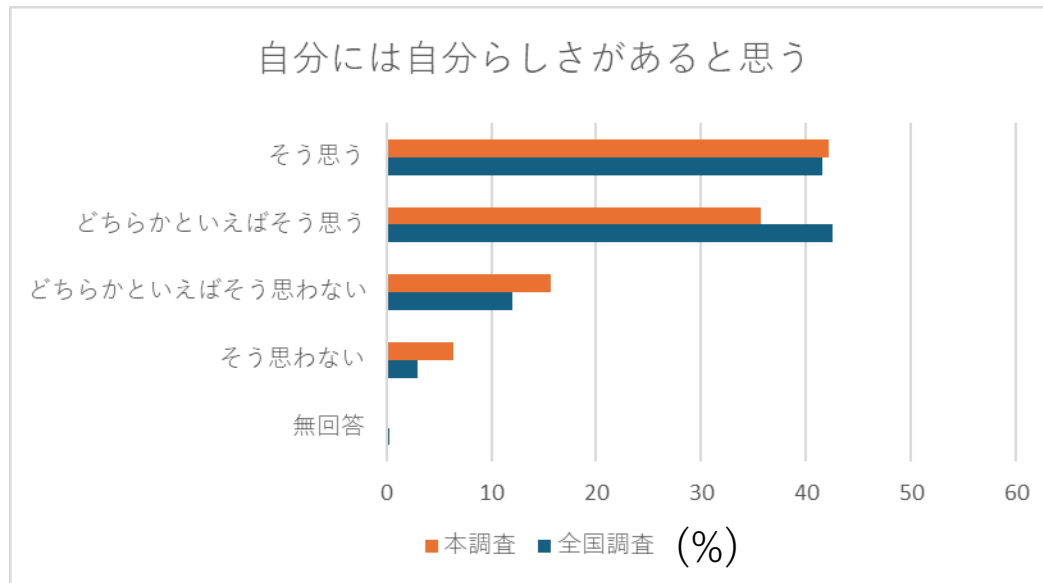


4. 学校在籍の有無 (n=141)

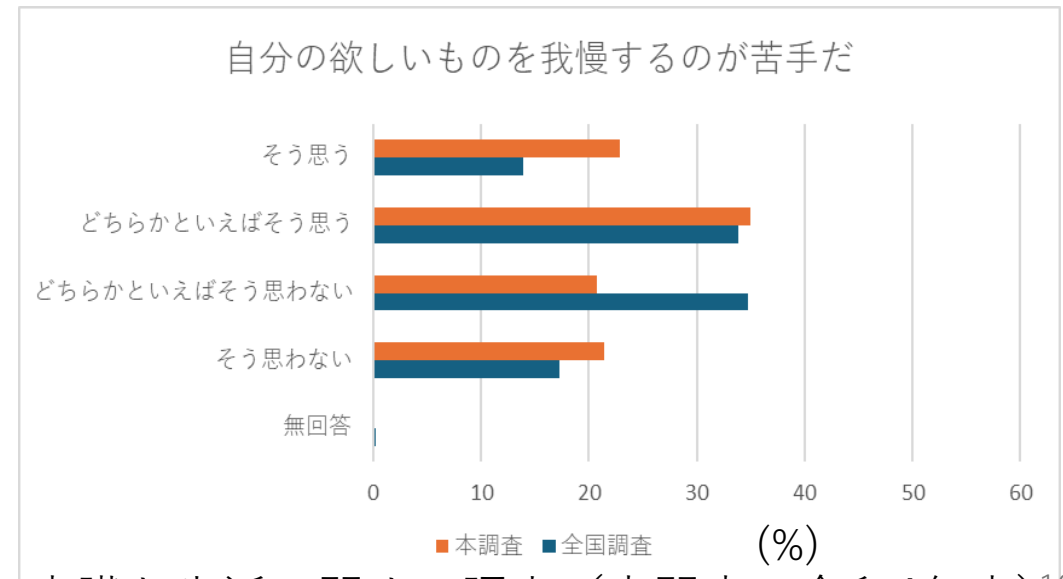
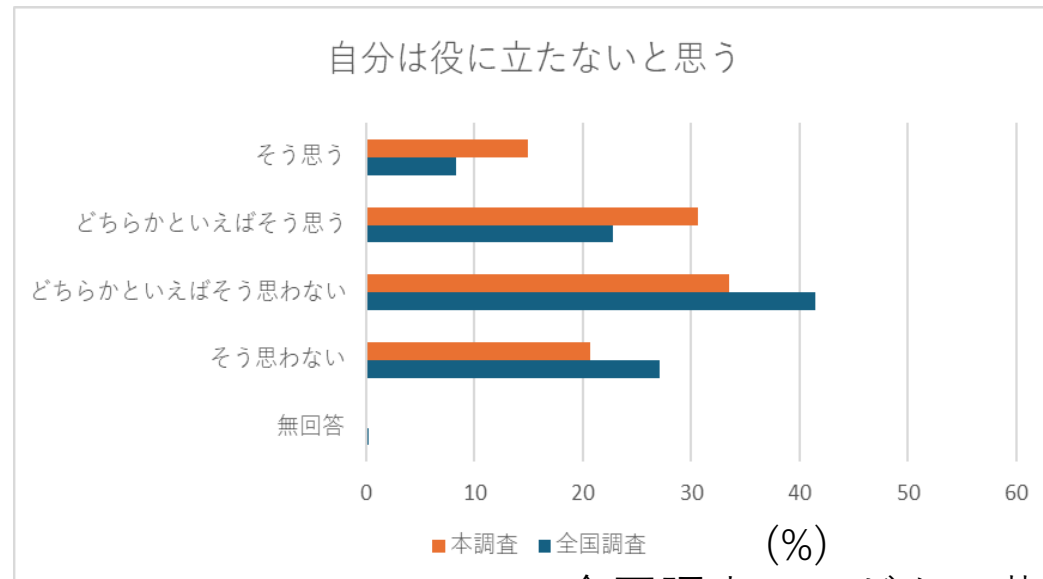
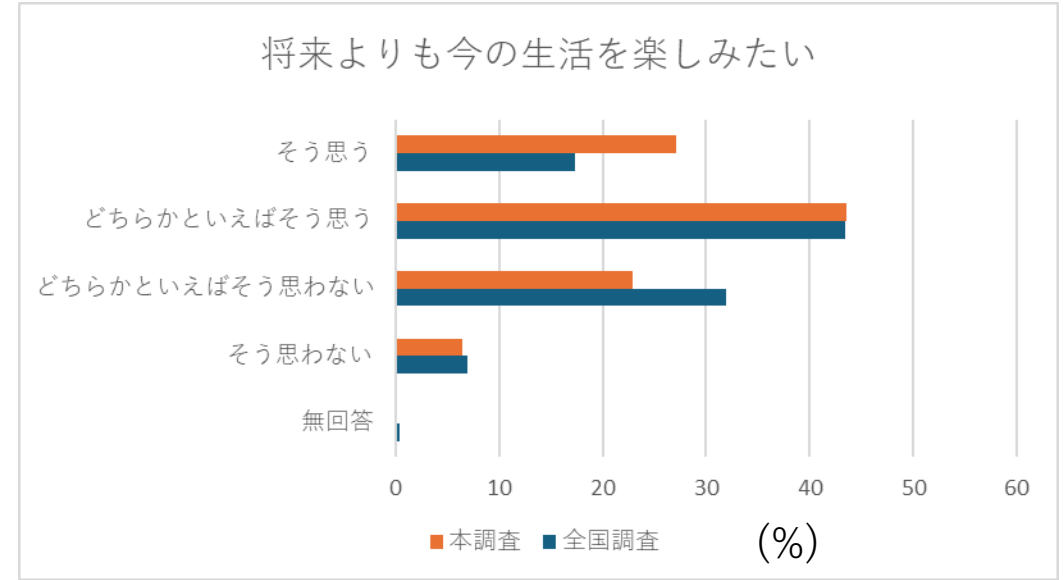
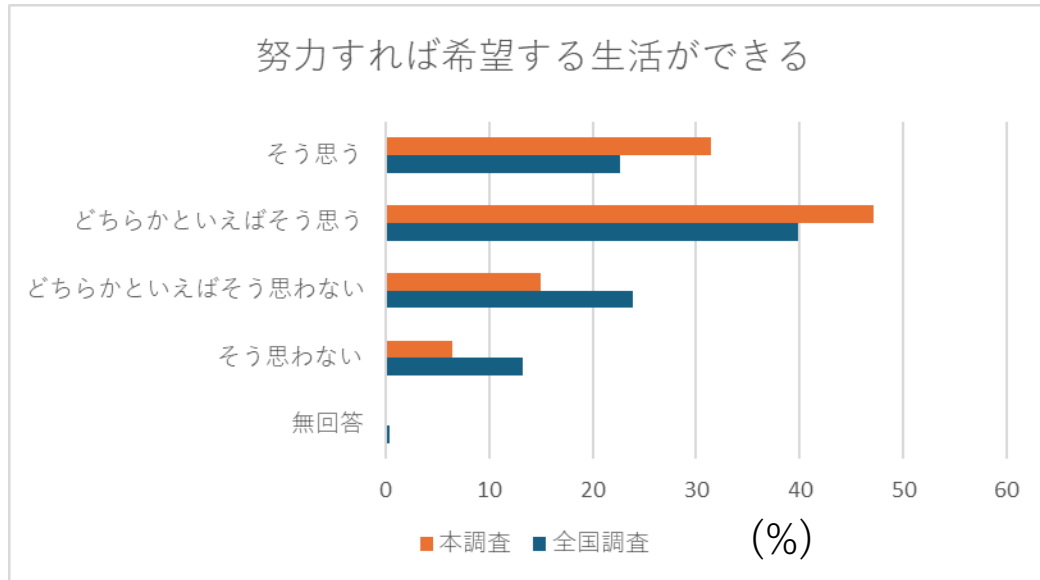
5. 職業、学校種別



6-1. 自分自身について当てはまる考え

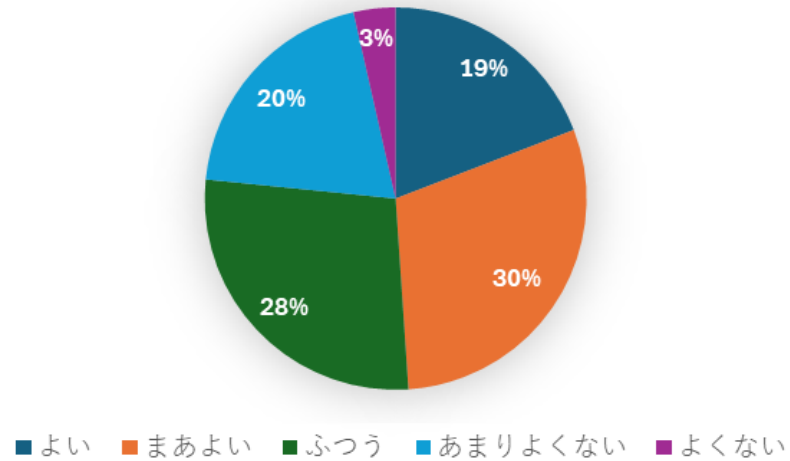


6-2. 自分自身について当てはまる考え

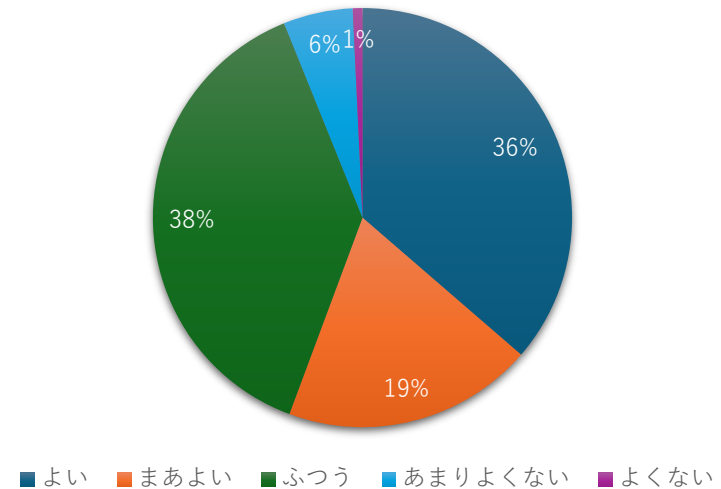


7. 現在の健康状態

健康状態（本調査）



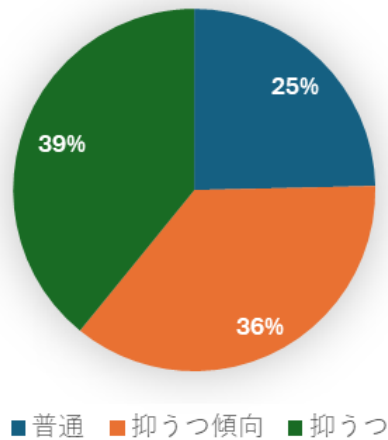
健康状態（全国15～44歳*；n=24,172）



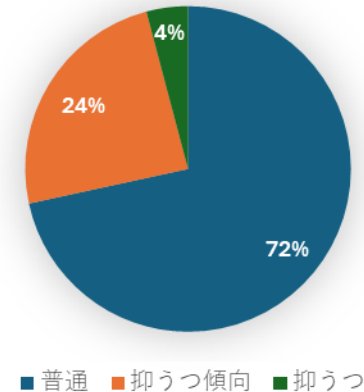
*国民生活基礎調査（2022）より

8. こころの健康 (K6)

こころの健康 (K6) 本調査



こころの健康 (K6)
全国(12~49歳* ; n=36,814)

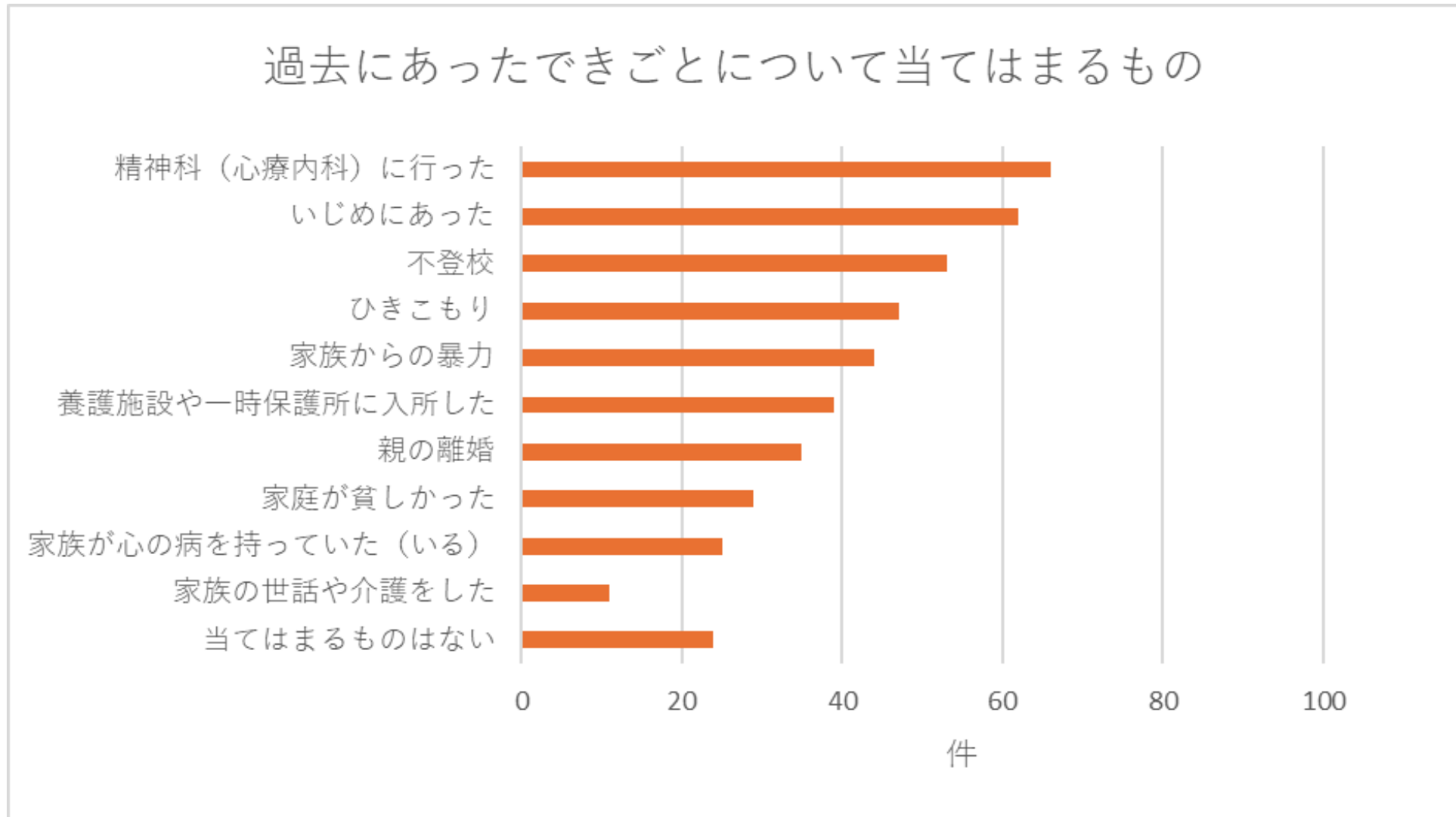


※K6 (0~25点) の得点を以下のように分類した

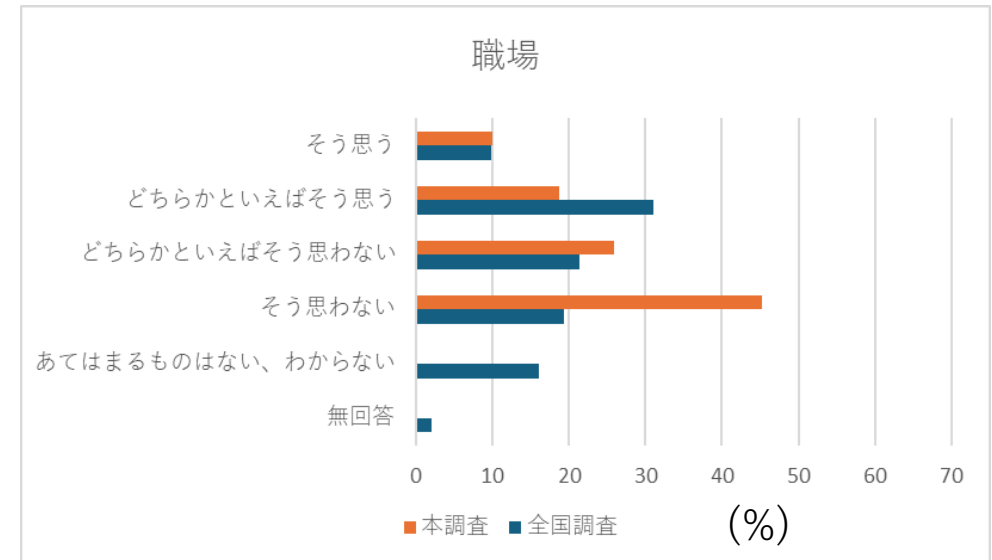
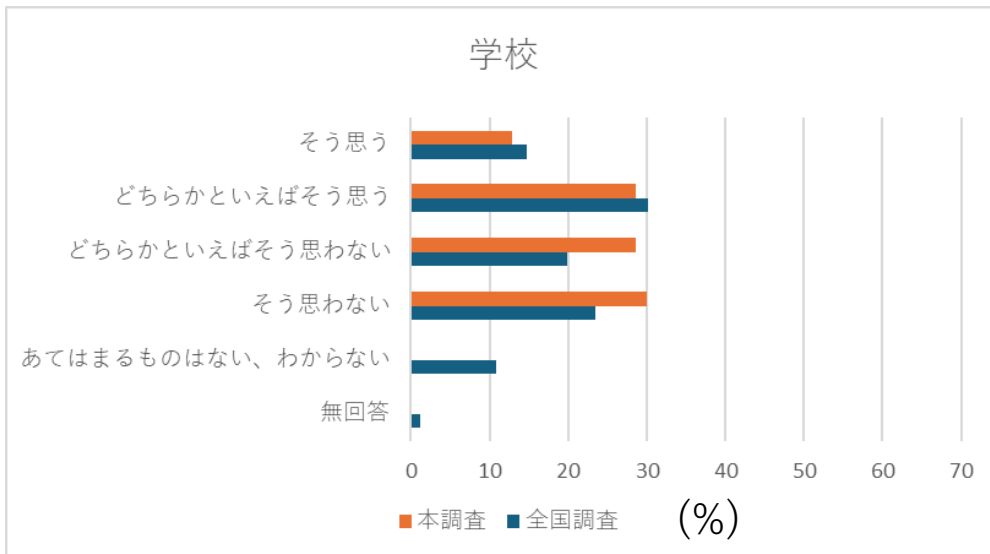
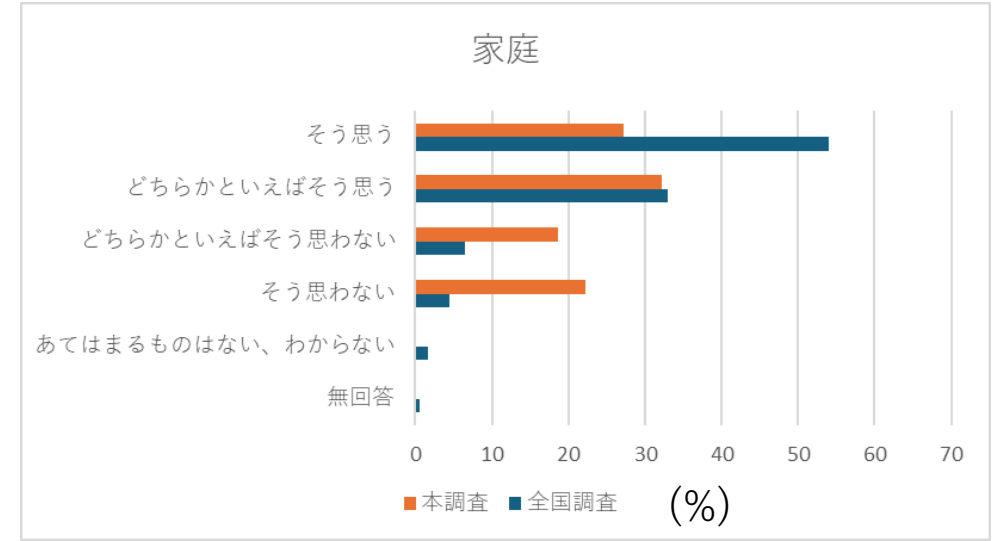
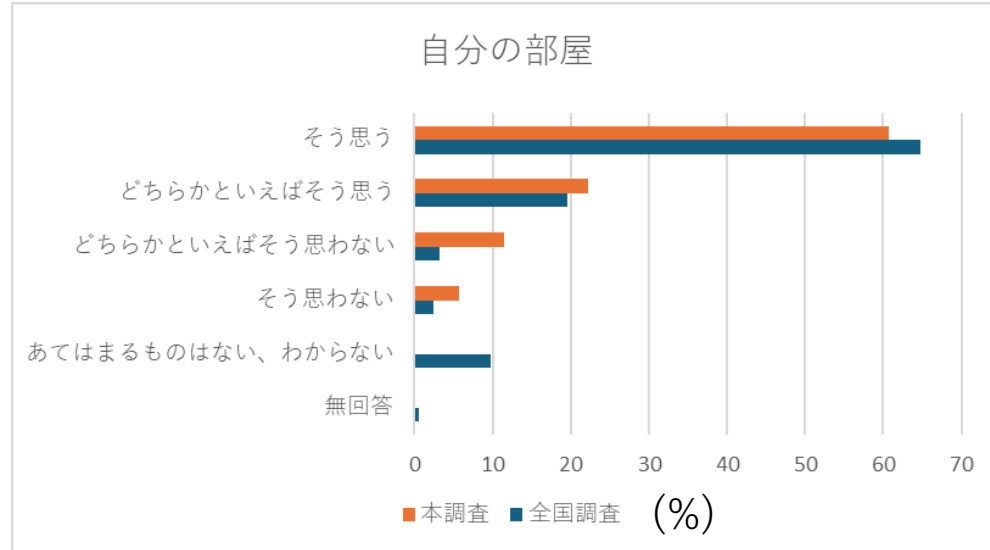
- ・ 0~4 : 普通
- ・ 5~12 : 抑うつ傾向
- ・ 13以上 : 抑うつ

*国民生活基礎調査 (厚生労働省、2022)より

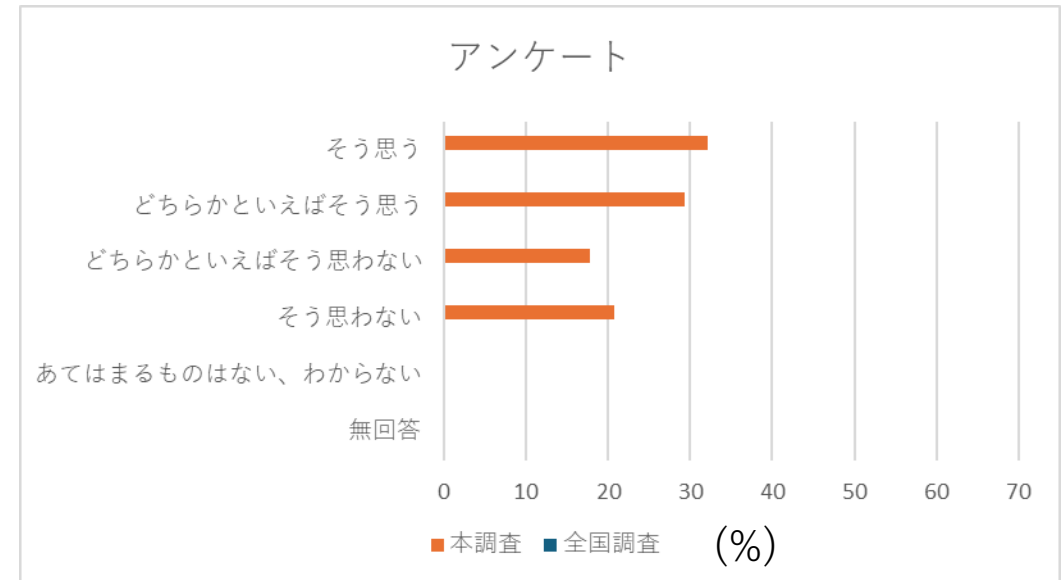
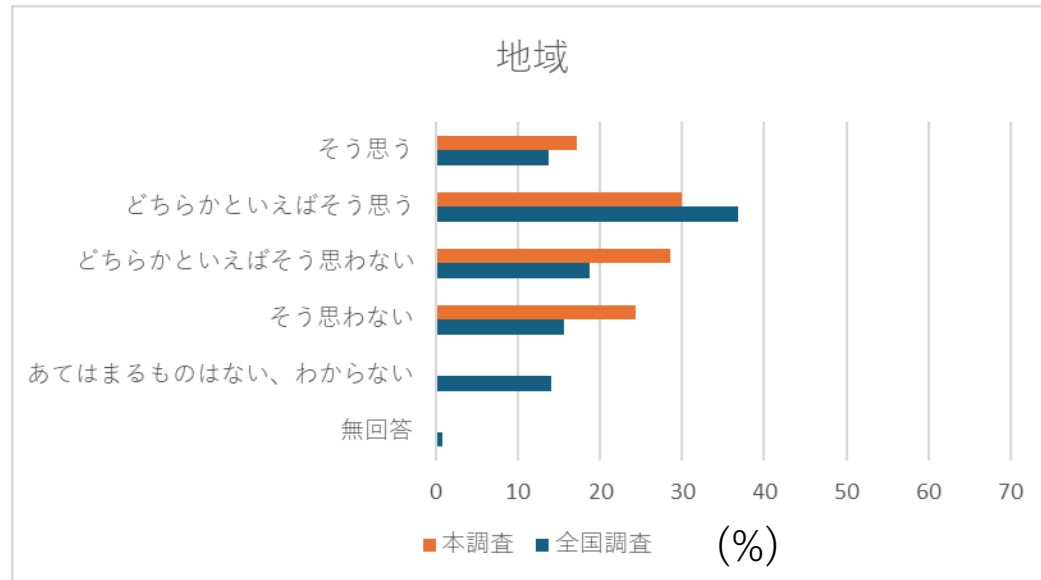
9. 過去にあったできごと（複数回答）



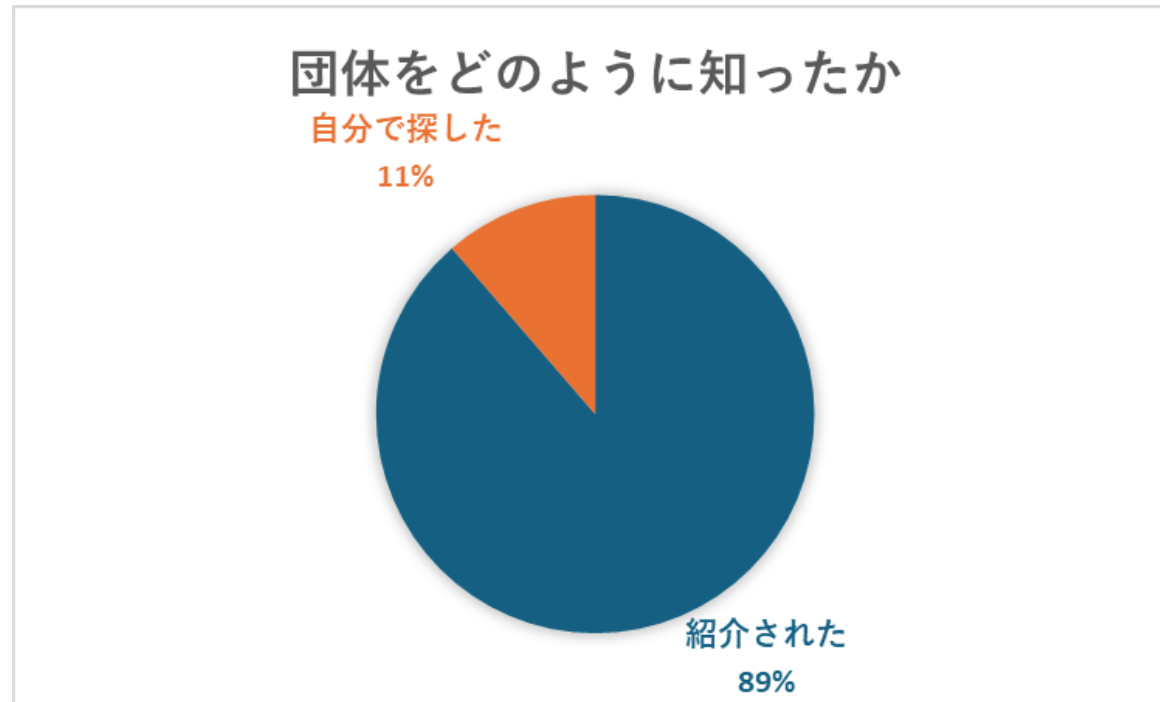
10. あなたにとっての居場所



10. あなたにとっての居場所

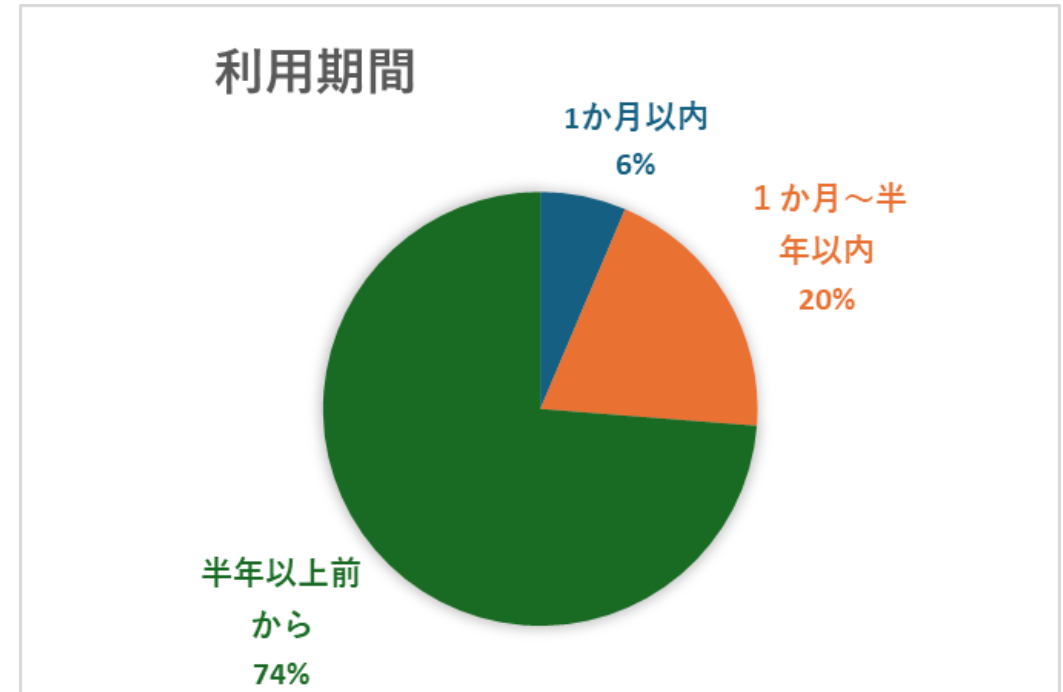
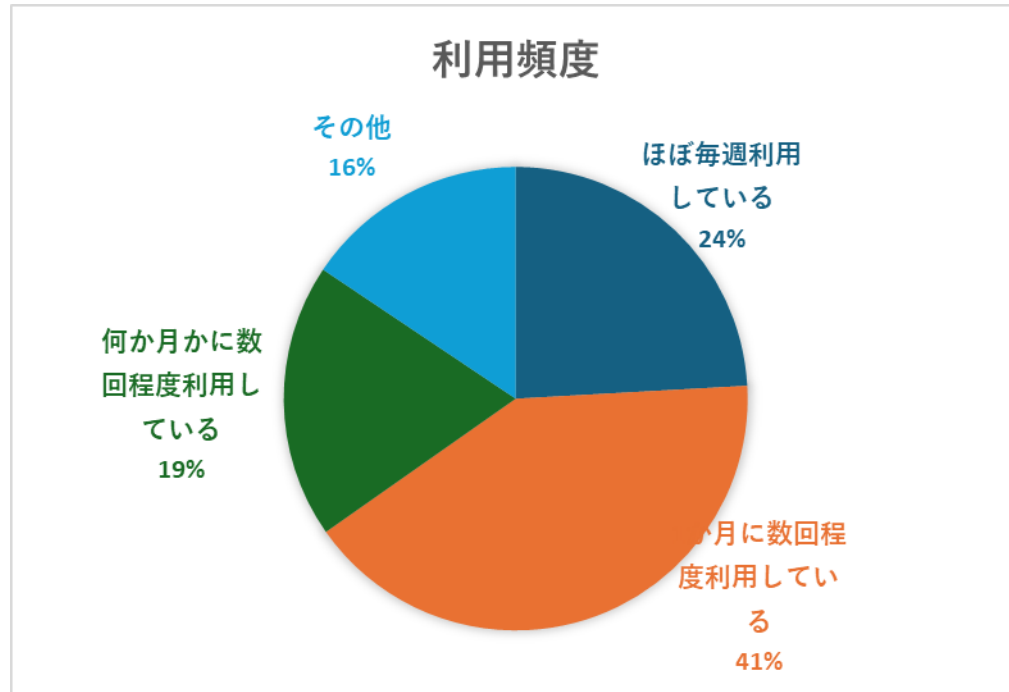


11. 団体を知った経路

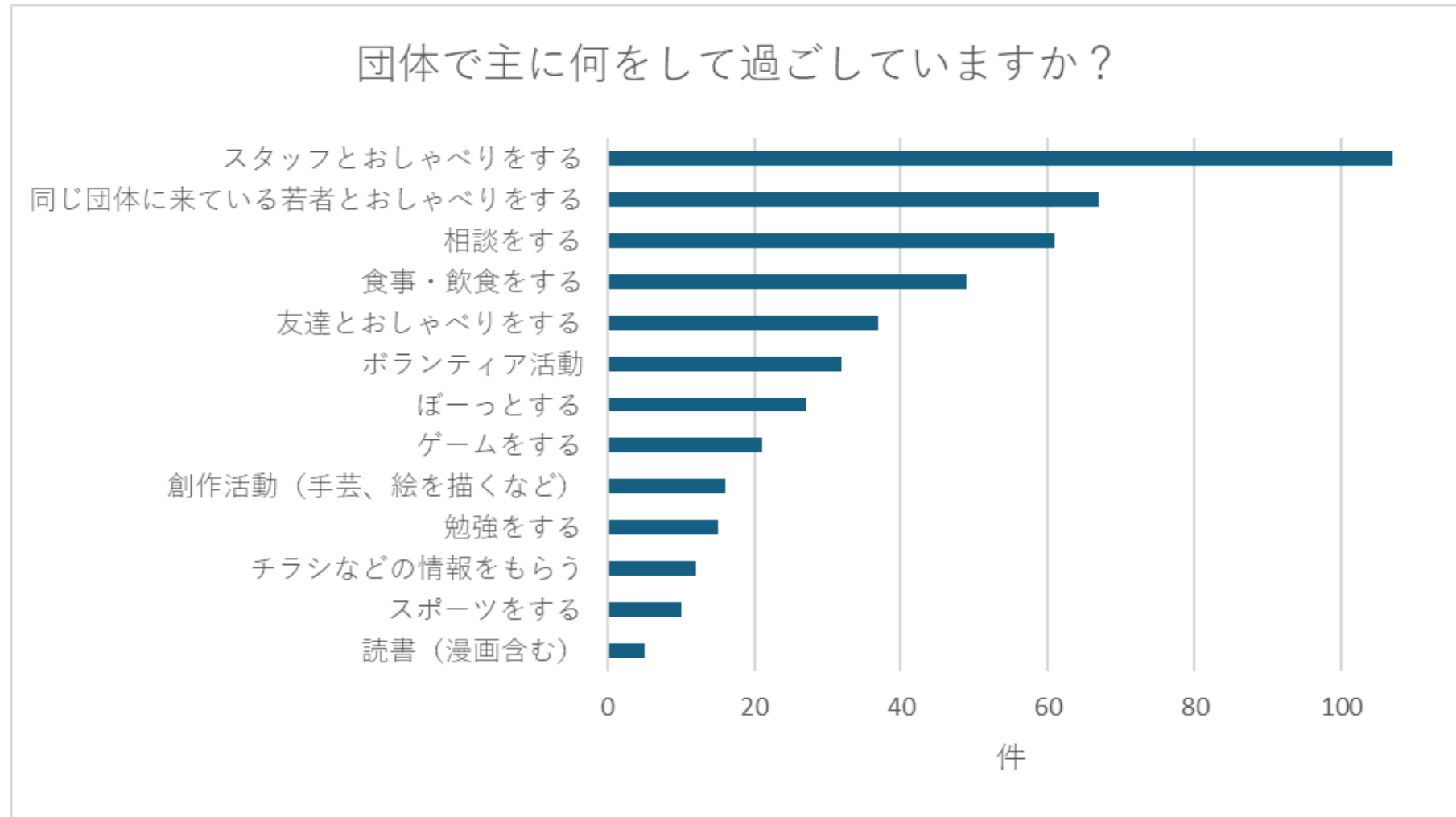


12. 団体の利用頻度 (n=141)

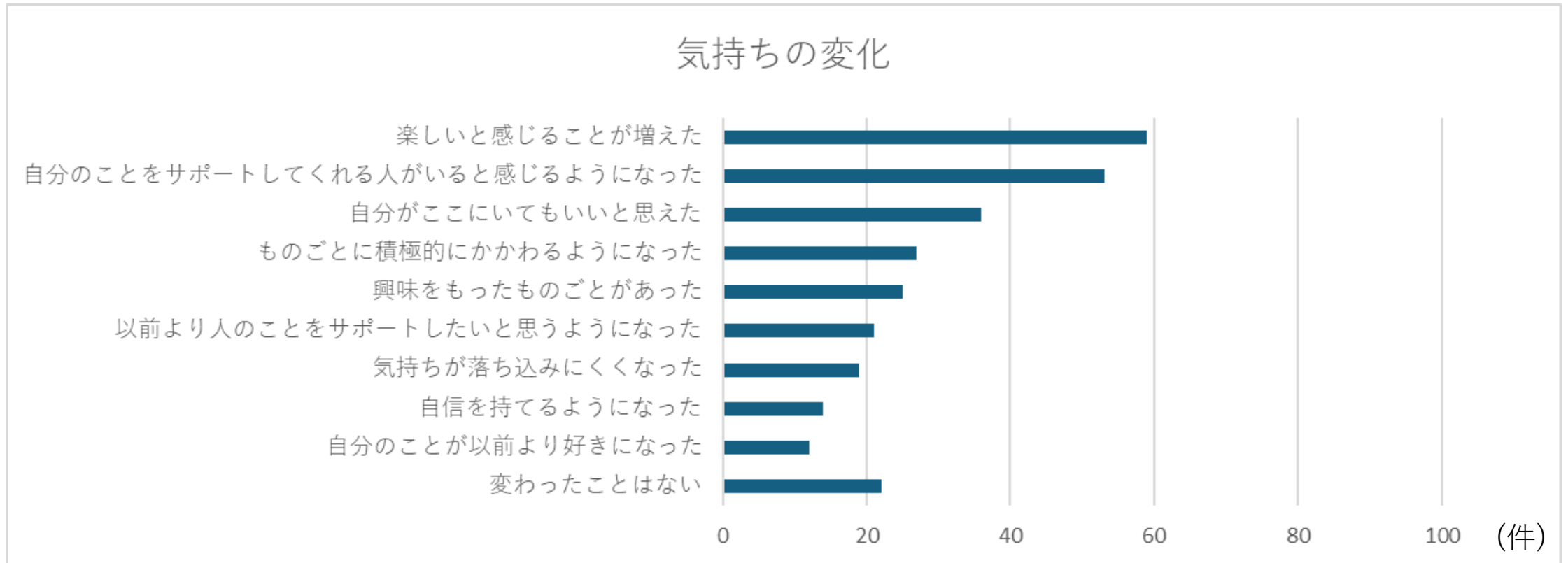
13. 団体の利用期間 (n=141)



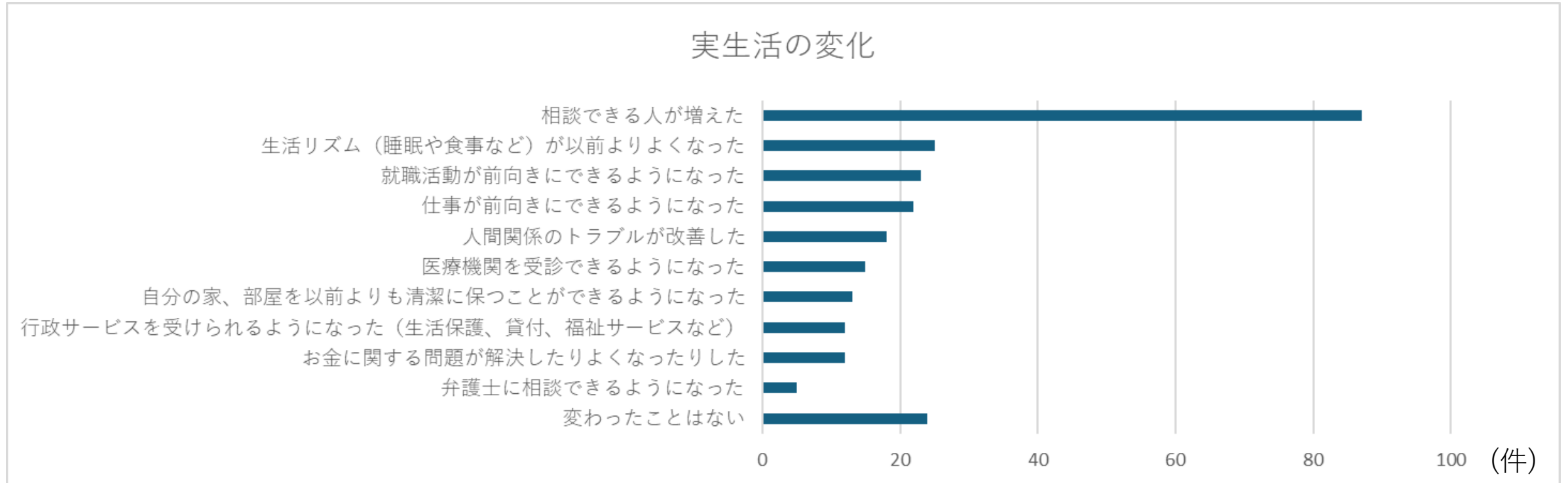
14. 団体での過ごし方（5つまで）



15. 団体を利用して変化したこと：気持ちの面 (3つまで)



16. 団体を利用して変化したこと：実生活の面 (いくつでも)

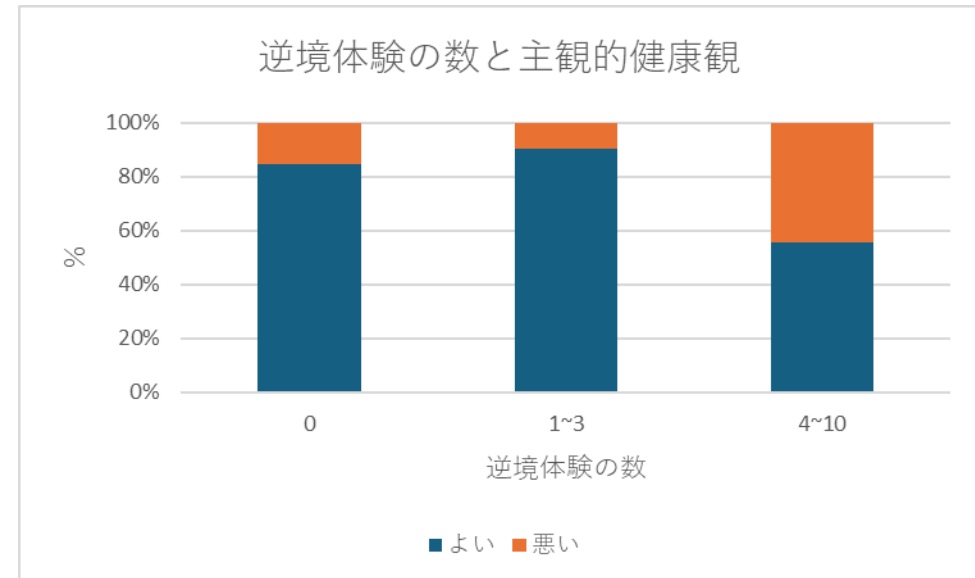
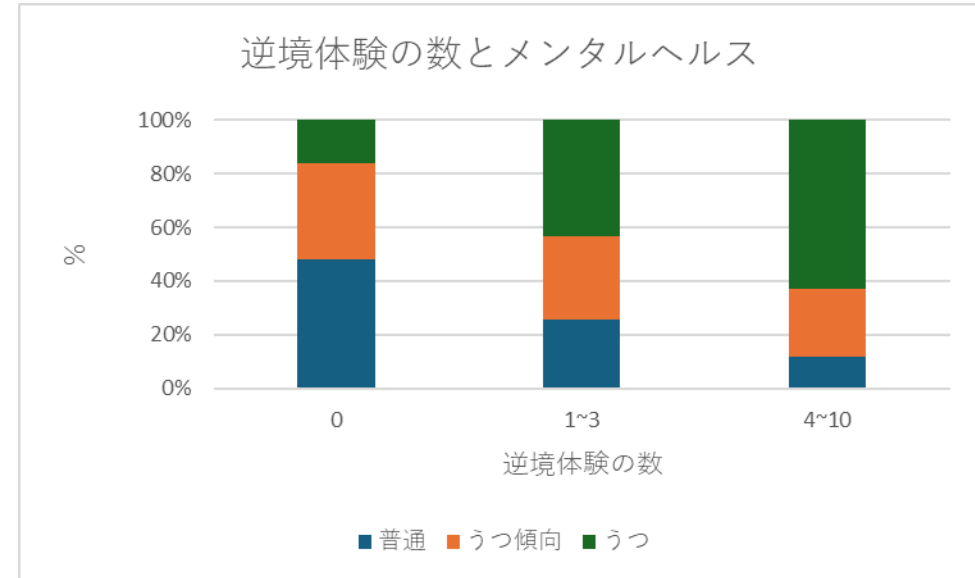


分析および結果のまとめ

1. 逆境体験の数と健康

表1 健康関連アウトカム (n=141)

	n	%
K6 (心の健康)		
普通	34	24.1
うつ傾向	41	29.1
うつ	63	44.7
欠損	4	2.8
主観的健康観		
よい	108	76.6
悪い	33	23.4

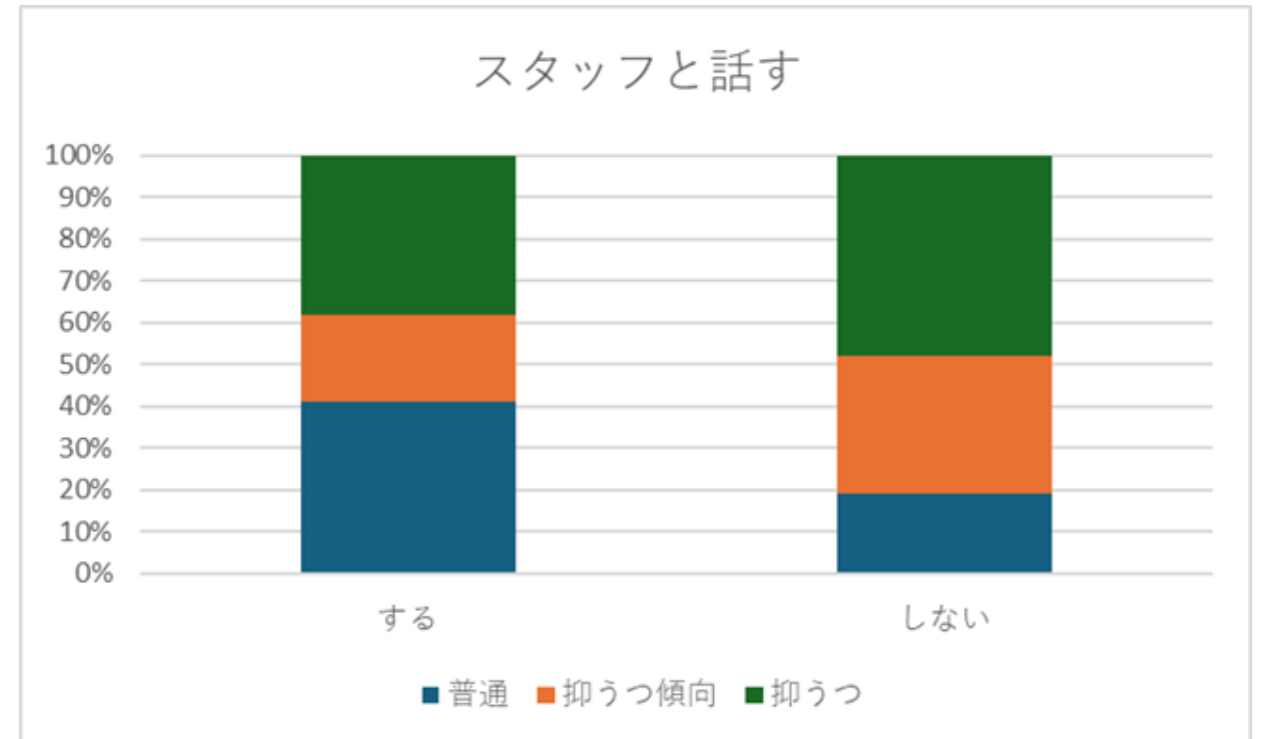


2. 団体で行う活動内容とメンタルヘルスの関連

表2 団体で行う活動（複数回答）

	n	%
スタッフとおしゃべりをする	107	75.9
同じ団体に来ている若者とおしゃべりをする	67	47.5
相談をする	61	43.3
食事・飲食をする	49	34.8
友達とおしゃべりをする	37	26.2
ボランティア活動	32	22.7
ぼーっとする	27	19.1
ゲームをする	21	14.9
創作活動（手芸、絵を描くなど）	16	11.3
勉強をする	15	10.6
チラシなどの情報をもらう	12	8.5
スポーツをする	10	7.1
読書（漫画含む）	5	3.5

* 赤字で示した項目は抑うつ傾向と関連（ χ 二乗検定、 $p < 0.05$ ）



3-1. 団体にきて変わったこと（気持ち面）とメンタルヘルスの関連

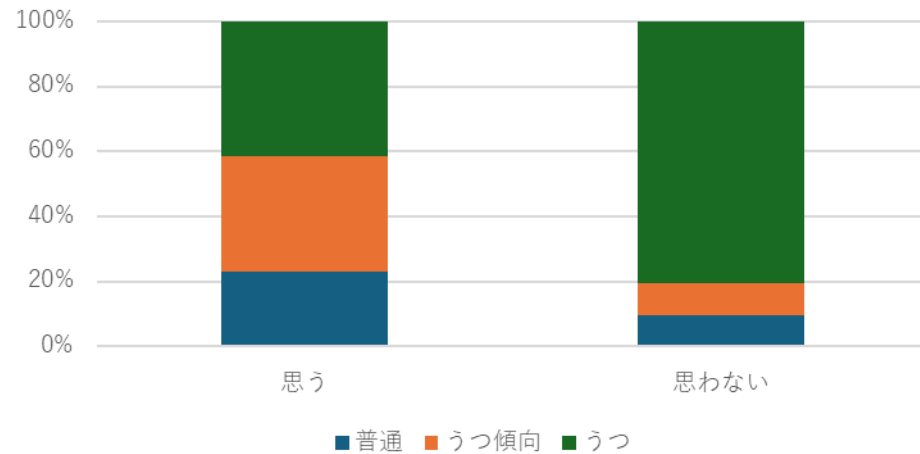
表3 団体にきて変わったこと：気持ちの面

	n	%
楽しいと感じることが増えた	59	41.8
自分のことをサポートしてくれる人がいると感じるようになった	53	37.6
自分がここにいてもいいと思えた	36	25.5
ものごとに積極的にかかわるようになった	27	19.1
興味をもったものごとがあった	25	17.7
以前より人のことをサポートしたいと思うようになった	21	14.9
気持ちが落ち込みにくくなった	19	13.5
自信を持てるようになった	14	9.9
自分のことが以前より好きになった	12	8.5
変わったことはない	22	15.6

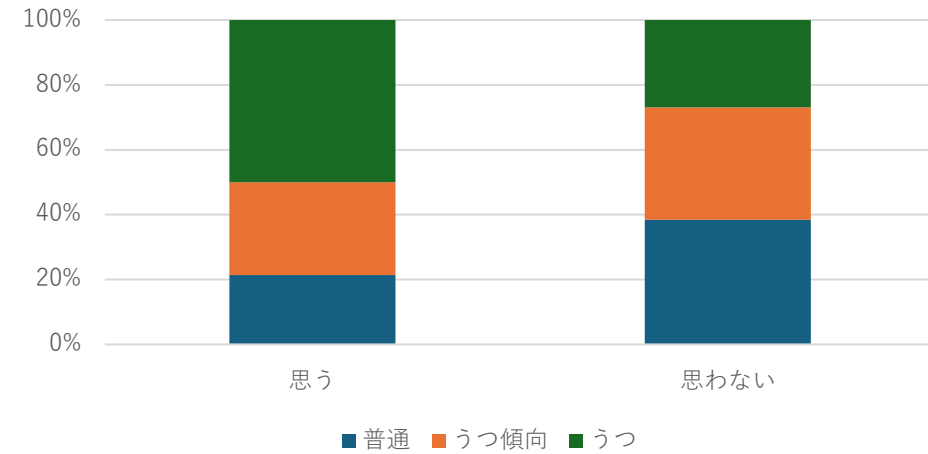
* 赤字で示した項目は抑うつ傾向と関連（ χ 二乗検定、 $p < 0.05$ ）

3-2. 団体にきて変わったこと（気持ち面）とメンタルヘルスの関連

ここにいてもいい*



積極的になった*



4. 団体に来て変わったこと（生活）とメンタルヘルスの関連

表3 団体に来て変わったこと（生活面）

	n	%
相談できる人が増えた	87	61.7
生活リズム（睡眠や食事など）が以前よりよくなった	25	17.7
変わったことはない	24	17.0
就職活動が前向きにできるようになった	23	16.3
仕事が前向きにできるようになった	22	15.6
人間関係のトラブルが改善した	18	12.8
医療機関を受診できるようになった	15	10.6
自分の家、部屋を以前よりも清潔に保つことができるようになった	13	9.2
行政サービスを受けられるようになった（生活保護、貸付）	12	8.5
お金に関する問題が解決したりよくなったりした	12	8.5
弁護士に相談できるようになった	5	3.5

結果のまとめ①

- 調査対象者は全国の若者に比べて、「家庭」「職場」を居場所と思えていない
- 団体で行う活動の上位5位
 - スタッフとおしゃべりをする、
 - 同じ団体に来ている若者とおしゃべりをする
 - 相談をする
 - 食事・飲食をする
 - 友達とおしゃべりをする
- 団体に来て変わったこと（気持ち面）の上位5位
 - 楽しいと感じることが増えた
 - 自分のことをサポートしてくれる人がいると感じるようになった
 - 自分がここにもいいと思えた
 - ものごとに積極的にかかわるようになった
 - 興味をもったものごとがあった

結果のまとめ②

- 団体に来て変わったこと（生活面）の上位5位
 - 相談できる人が増えた
 - 生活リズム（睡眠や食事など）が以前よりよくなった
 - 就職活動が前向きにできるようになった
 - 仕事が前向きにできるようになった
 - 人間関係のトラブルが改善した
- 団体にスタッフと話をする人ほどメンタルヘルスがよい
- 団体に来て「ここにもいいと思うようになった」人ほどメンタルヘルスがよい

考察・まとめ

- 若者支援団体は、家庭や職場を「居場所」と思えない若者に対して、おしゃべりや相談などを通じて、「ここにいてもいい」「サポートしてくれる人がいる」というポジティブな感情を与えられている可能性がある
- 「団体に来ておしゃべりをする」「ここにいてもいいと思える」という体験は、利用者のメンタルヘルスを向上させている可能性がある

謝辞

- 国立保健医療科学院の田中淳子さんに、分析結果の整理をお手伝いいただきました